







桐工高フラスバンド演奏会  
第1回演奏会 昭和38年10月  
産業文化会館ホール

# 七才になったブラバン部

## 群馬県吹奏楽 コンクールに 第四位獲得

文化の訪れる処、楽しい音楽が一年には更に楽器の購入補充を行なうことは古代から何等かの形で、表されて来た。教育の場には、昭和二十六年盛夏、全国高校選抜硬式野球大会に出場の野球部を押し、遠く甲子園原野に駒を進め、前田村PTA会長は早くからフラスバンド部の設置を計画、多くの困難を克服し、関係各方面の協力を得て、誕生したのが七年前であり、十名程度の小編成ではありましたが、それでも当時としては、東毛地区の高等学校では本校を以て嚆矢とし、翌中島飛行機、Kの傘下の学校工場となった。戦後再び機械を調付けたが、配給制度の一時は、同業者者に利用させ、生徒の勉強の一助としたものである。

昭和二十七年産業教育振興法に基き新しい機械も購入され、年々その設備も充実しているが、未だ古い機械も多数あり、逐次近代化の方向に進めたいと思っている。現在では織維試験室、織物分解実習室なども完備され、昔の生徒と比べて見た場合、現在の生徒は非常に幸福であると思ふ。しかし、生徒の気力であり、設備内容が整ってやる気のない人間では社会へ出ては駄目なのであるから、内容も気力も共に立派な卒業生として社会に貢献出来るよう指導して行きたいと思っている。お陰様で当科の職員は、いつも実社会の第一線において活躍をされていたベテラン職員を擁し、その学識と経験とは本校の誇りとするところである。

織維産業が斜陽産業といわれるけれど、数少ない織維関係学科より優秀な人間を出し、日本織維産業発展の為働いてもらいたいと思っている。幸にして就職関係も地元は勿論、全国に送っており、100%の就職率ではあるけれど、前述の如くやる気のある人間に成長してもらいたいものである。

産学協同というけれど、卒業生の諸君も時には学校へ遊びに来て

### 色染化学科

開校当時から当科の施設設備はこれが工業学校かと疑問をもつ程度で、その指導には諸先輩先生の並々ならぬ苦勞があったことと思ひます。幸にも産業教育振興法の制定により、国庫、県費、補助並びにPTA援助により、昭和29年度に色染工場87坪の竣工を見るに至りました。工場、設計、機械購入、据付等に、元科長鈴木先生(本工教頭)を中心に、現在いる阿久津、関口、松本諸先生が協力し、その成果が現在の工場になったのである。以後学校工場もモデル校としてその名を高めました。昭和30年度には、文部省研究指定校として選ばれ二年間の研究成果を立派に発表することができました。以後染色機械、試験機械、分析器具類も完備しつつあります。開校当時とは、雲泥の差で現在の生徒諸君は如何に幸せで

あるかわかる。又、研究についても昭和38年度より引続き文部省新教科書「染色理論化学」の編集の一員に本校から、亀田先生(定時制)、阿久津が当の先月脱稿し、来年度用として使用できる段階になっております。本年度に入り、老朽化した試染室、天解室、分析室「ドラフト」の改修に県費、PTA援助により全国にもない新設備を整え、座学もできるよう、生徒用廻転椅子を入れ、時代と共に変わつて来た当科である。

現在当科職員は新任の八田、田、阿部諸先生を迎え、6名の平均年齢34才、平均勤続年数11年余のベテラン揃いで生徒諸君の学業向上に力を注いでいます。

次に当科の頭痛の種であった就職問題は、担任金森先生の献身的努力もあり、不況下の業界に100%の就職率を示し、一応責任をはたすことができました。

最後に織維工業界、化学工業界の次代を背負う若人達が、統々と当科に志望されることを先輩諸君にお願い致します。

(色染化学科長 阿久津記)

### 機械科

機械科は設置以来二十年になります。数年前のこぎの屋根の古工場の取り壊され、鉄筋コンクリート造りの立派な外観に新築されました。しかし設備の方は旧態依然として、工作機械の発達の中の歴史の展示品です。それでも生徒は真剣に実験実習に取り組んでおります。

今後の計画は、これら老朽設備の更新、新しい実験装置の充実をはかることです。幸い今年度二階建て70坪の予算を得て、現工場の東側空地に原動機実験及び計測実験室が建ちます。設備は来年度予算で蒸気、水力、内燃機関の実験装置、測定器具を設備する予定です。

急アンボの機械工業の発達に對する古い知識ではどうにもならず、新しい設備と新しい知識を持たなければ工業高校卒業生の名も泣きたすことでしょう。これ迄は充分の設備もなくお互に苦しんで改善を加えて第一職に立って努力してゆきたいと思ひます。

機械科長 小川宏記

照明下で運動をする定時制生徒

余名、名実共に県下定時制の大規模校となりました。電気科卒業生には第三種電気主任技術者資格取得の認定校として、申請も関係諸先生の御努力により通産省に手続済みです。先般電気工事士試験も十九名受験全員合格の成績を挙げ、免許書を交付され、学業成績も着々上っております。

来春卒業予定者の就職状況は地域産業に寄与すべく、職員、生徒もそのつもりで極く一部の生徒を除いた大多数が、市内又は県内に留まります。学習意欲も旺盛で、短大進学者も漸増し、勉学も熱心で出席率も九十四%の好成績であります。

クラブ活動も盛んで毎晩九時半まで行なわれ、特に三十八年度に県下第二番目の校庭照明が予算化され、百八十万円で完成されました。

### 各 科

開校当時から当科の施設設備はこれが工業学校かと疑問をもつ程度で、その指導には諸先輩先生の並々ならぬ苦勞があったことと思ひます。幸にも産業教育振興法の制定により、国庫、県費、補助並びにPTA援助により、昭和29年度に色染工場87坪の竣工を見るに至りました。工場、設計、機械購入、据付等に、元科長鈴木先生(本工教頭)を中心に、現在いる阿久津、関口、松本諸先生が協力し、その成果が現在の工場になったのである。以後学校工場もモデル校としてその名を高めました。昭和30年度には、文部省研究指定校として選ばれ二年間の研究成果を立派に発表することができました。以後染色機械、試験機械、分析器具類も完備しつつあります。開校当時とは、雲泥の差で現在の生徒諸君は如何に幸せで

あるかわかる。又、研究についても昭和38年度より引続き文部省新教科書「染色理論化学」の編集の一員に本校から、亀田先生(定時制)、阿久津が当の先月脱稿し、来年度用として使用できる段階になっております。本年度に入り、老朽化した試染室、天解室、分析室「ドラフト」の改修に県費、PTA援助により全国にもない新設備を整え、座学もできるよう、生徒用廻転椅子を入れ、時代と共に変わつて来た当科である。

現在当科職員は新任の八田、田、阿部諸先生を迎え、6名の平均年齢34才、平均勤続年数11年余のベテラン揃いで生徒諸君の学業向上に力を注いでいます。

次に当科の頭痛の種であった就職問題は、担任金森先生の献身的努力もあり、不況下の業界に100%の就職率を示し、一応責任をはたすことができました。

最後に織維工業界、化学工業界の次代を背負う若人達が、統々と当科に志望されることを先輩諸君にお願い致します。

(色染化学科長 阿久津記)

### 電気科

電気科は設置以来二十年になります。数年前のこぎの屋根の古工場の取り壊され、鉄筋コンクリート造りの立派な外観に新築されました。しかし設備の方は旧態依然として、工作機械の発達の中の歴史の展示品です。それでも生徒は真剣に実験実習に取り組んでおります。

今後の計画は、これら老朽設備の更新、新しい実験装置の充実をはかることです。幸い今年度二階建て70坪の予算を得て、現工場の東側空地に原動機実験及び計測実験室が建ちます。設備は来年度予算で蒸気、水力、内燃機関の実験装置、測定器具を設備する予定です。

急アンボの機械工業の発達に對する古い知識ではどうにもならず、新しい設備と新しい知識を持たなければ工業高校卒業生の名も泣きたすことでしょう。これ迄は充分の設備もなくお互に苦しんで改善を加えて第一職に立って努力してゆきたいと思ひます。

電気科長 小川宏記

### 建設科

建設科は設置以来二十年になります。数年前のこぎの屋根の古工場の取り壊され、鉄筋コンクリート造りの立派な外観に新築されました。しかし設備の方は旧態依然として、工作機械の発達の中の歴史の展示品です。それでも生徒は真剣に実験実習に取り組んでおります。

今後の計画は、これら老朽設備の更新、新しい実験装置の充実をはかることです。幸い今年度二階建て70坪の予算を得て、現工場の東側空地に原動機実験及び計測実験室が建ちます。設備は来年度予算で蒸気、水力、内燃機関の実験装置、測定器具を設備する予定です。

急アンボの機械工業の発達に對する古い知識ではどうにもならず、新しい設備と新しい知識を持たなければ工業高校卒業生の名も泣きたすことでしょう。これ迄は充分の設備もなくお互に苦しんで改善を加えて第一職に立って努力してゆきたいと思ひます。

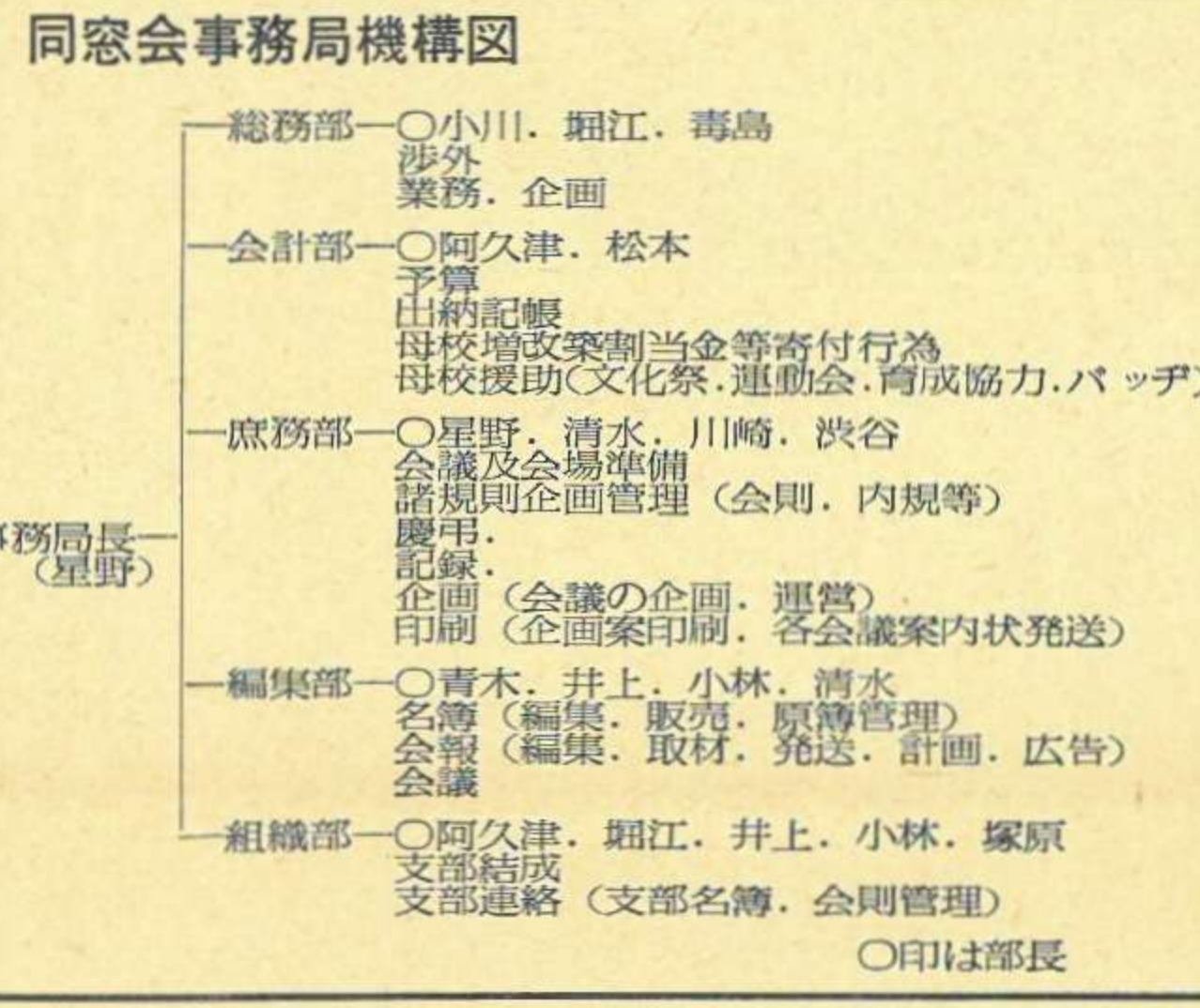
建設科長 小川宏記

### 定時制

定時制の教育課程も機械、染織の三課程となり、来年三月には電気科の第一回卒業生を送り出すまでになりました。専任職員数も二十六名となり、全日制の先生三十余名の兼務を願ひ、生徒数五百

### 編集後記

やっこのこと、どうやら会報らしいものが出来あがり、その素人の悲しき、予定よりはるかに遅れ更にくらしいものしか作れぬ甲斐なき、全く赤面の至り。加賀山、石川、加藤の諸先生には折角の玉稿をいたさながら、このて



## 成 落 館 育 体 祝 刊 創 報 会

原精写真館

桐生市宮本町  
TEL②三四二七

フジスポーツ

本町四ノ八〇  
TEL(2)三五四七

サトウ帽洋専門店

桐生市本町6 TEL②3483

放を楽しく.....

**D.T.C 第一旅行社**

桐生・前橋・伊勢崎・佐野・足利・東京・京都・仙台







組織強化の動き

全国に支部を!!

「同窓会」を寄つて集めるといふ... 久しく論議的であった。「組織」に支部育成のツウステップにも教

- 一、支部結成予定の区分 (市内) 境野、広沢、相生、川内、梅田、菱、東、南、西、北、(学区単位) 大間、黒根、東村、を含む、上電沿線、大胡、前橋、笠懸、数家、伊勢崎、佐波、太田、新田、高崎、安中、藤岡 (県外) 栃木、埼玉、茨城、千葉、神奈川、東京、静岡、岡、東海、信越、北陸、関西

支部結成第一号

境野支部誕生

支部長に下山巖司氏



写真 境野支部総会スナップ



組織部は支部結成の準備、その後二回の準備委員会を成のモデル地区と... かさね会員名簿の修正、支部規約

同窓会長の 朽津房次郎氏

(1)

同窓会長として卒業式に祝辞を述べることおおよそ二十回。期々たる声で卒業生を励ます姿は若さ溢れている。品のよい顔立ち、人あたりの柔らかい物腰、紳士の中の紳士という言葉がこの人にそのままたまはまる。真に紳士第一号に登場願うにはもってこいの人だ。

梅田村生れ、祖父は村長を勤めたこともある素封家だったが、父の代に没落、大変苦労をしながら、幸い兄の理解ある計りで桐工に学び卒業後はすぐ勤め

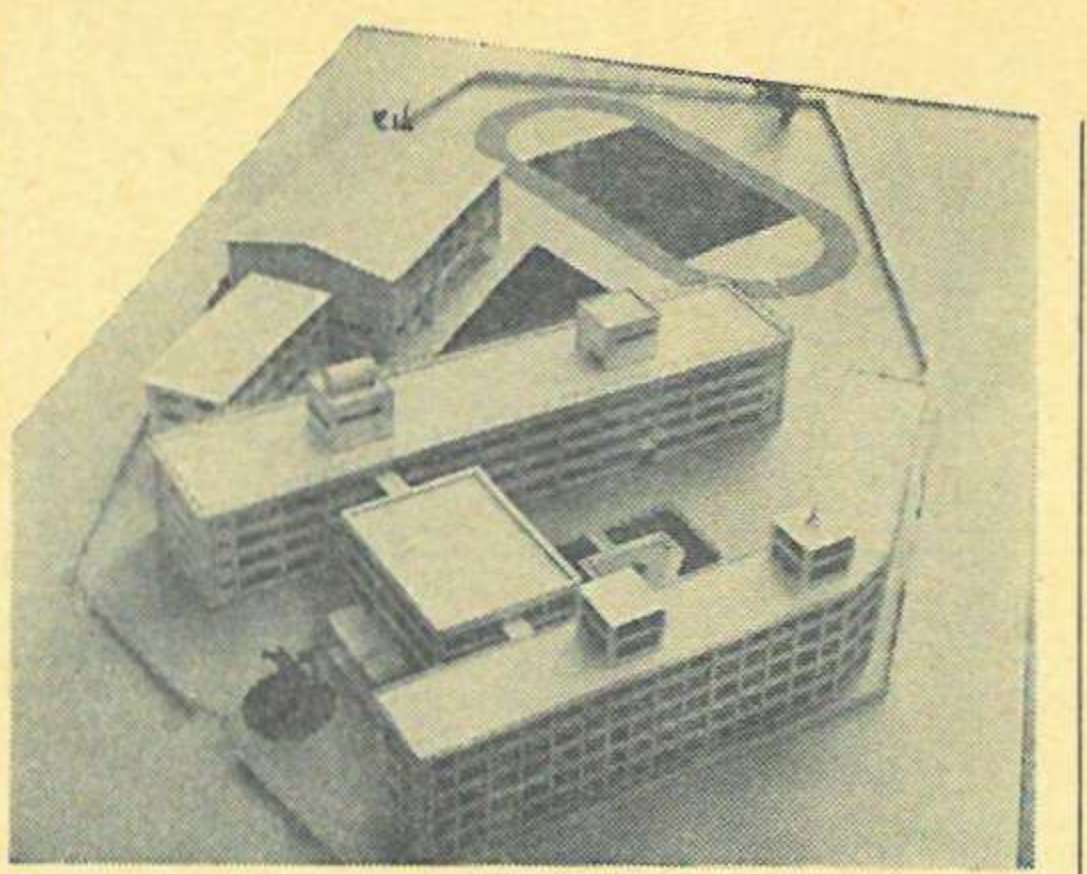
選出の議事に入り、なごやかながら熱心な討議が続けられ、とりわけ支部会費の金額決定には議論百出、結局年額一〇〇〇円を二期に分納することに落ち着いたが、実際に活動するには少な過ぎるとの意見が出たり、支部活動の柱は親睦懇親にあるのだから年二回程度の懇親会が充分であるだけの額がよいとの意見が出たりで、これには数十分を費した。議事も終り、役員

会り クラス 便 はるばる九州より来桐の 永井先生を囲んで 旧制一〜三回卒



先生を慕って集った卒業生

「先生ウニヤ」といったら聞かせんぞ」細い目をして金縁眼鏡の奥から白い目玉で吾々をにらんで、国語の時間は毎時五分づつ誤字当字のないように書取の試験をさせられたものである。去る三月十六日突然に来桐せられ、加賀山前校長、石川先生(現桐高)の諸先生方と旧制一、二、三回卒業生の有志を集めて花月旅館で歓迎会を催した。先生は所用のため上京の折わざわざ来桐されたのであるが



10年後の母校?

この写真は昨年の文化祭に展示された本校夢の総合計画にもとづく模型である。増築、改築により校舎のレイアウトも乱れ、航空写真にみられるような、おおよそ珍妙な姿となった母校を、抜本的に作り直そうと言うのがこれを作った建設科職員、生徒の弁である。勿論これに異論はない。夢でない日くるのを祈ろう。

落成 体育館 祝 刊 創 報 会

新井工業所 上下水道 衛生設備 空気調和 設計 施工 新井嘉一(第四回W卒) 桐生市宮前町一 TEL ② 四五五一